

みんなの  
ための  
学校長会に

# 茨城県 学校長会広報

第243号

発行者  
茨城県学校長会  
会長 伴 敦夫  
事務局  
〒311-1125  
水戸市大場町933-1  
教育プラザいばらき内  
☎ 029-269-1300  
FAX 029-269-1304

特集

## 新年度に備えて 危機管理体制の整備と学校安全の確保



### 目次

- 表紙写真に寄せて
- 特集1「新年度に備えて  
―我が校の課題―」…………… 2
- 課題「見える化」で  
働き方改革?」…………… 5
- 特集2「危機管理体制の整備と  
学校安全の確保」…………… 6
- 提言二題…………… 8
- 特別寄稿「音楽の力、豊かな  
人間性や感性を育むために」…………… 9
- 研修報告「全連小・全日中」…………… 9
- ブロック研修会から…………… 10
- ひばり…………… 12
- 図書紹介…………… 13
- 梅のかおり…………… 14
- 市町村教育委員会と学校長会…………… 16

生徒会スローガン「繋ごう二中  
の伝統 輝かせよう一人一人の  
個性」が実現した体育祭

常陸大宮・第二中 鴨志田 太

本校の体育祭の特徴、それは、プログラムに二〇年以上続く伝統種目が並び、一年生から三年生までの完全クラスマッチ方式で行うことにあります。そのため、時には一年生が周回遅れになるシーンも見られます。しかし、そんな時は会場中から励ましの言葉が贈られ、ゴールした後は大きな拍手に包まれます。

一生懸命やるから、拍手をもらう方も贈られる方もすがすがしい気持ちになります。このすばらしい伝統をこれからも繋げていきたいと思えます。

特集 1

新年度に備えて  
—我が校の課題—

一人一人が輝く魅力ある学校を  
目指して  
～主体的で深い学びの創造～

ひたちなか・東石川小 関口 拓生

本校は、ひたちなか市の中心街にあり、全児童数四一八名の学校である。保護者や地域住民の教育に対する関心も高く、「オール東石川」体制で参加型の学校行事を多く取り入れている。次年度は、『生活科・総合的な学習の時間』の関東ブロック茨城大会発表校でもあり、新学習指導要領の趣旨を踏まえ、二つの項目を重点にさらなる改善のマネジメントを図っていく。

授業展開

子供の発想はとても豊かである。一つの問いに対して、いくつもの反応があり、答えを導く過程も様々である。つばやきのある授業は、それまでのプロセスを大切にしてきた結果であり、それをどう繋げていくかが教師の力量のように感じる。つばやきや気付きの連鎖から、子供の思いや願いを引き出し、ねらいに迫る授業、このような授業展開を教師が認識し、授業が子供にとって魅力的となるように確かな教材研究に基づく「観察の指標」を明確にする。

二 教職員の同僚性による親和

的な学級集団づくり

日本の学校は学級を母体として教育が行われる。学力の向上は学級力、親和的な集団の中で成立する。対話的で深い学びを実現させるためには、学級の雰囲気が一一人にとって心地よいものとなり、居場所としてそこに集う子供たちに絆が生まれることが大切となる。生徒指導の三つの機能である、①自己決定の場を与える②自己存在感をもたせる③共感的人間関係をつく

生徒が輝く楽しい学校

常陸天宮・明峰中 小池 浩一

本校は、美和中・緒川中が統合してできた、創立四年目の学校である。そして、来年度、さらに御前山中を統合し、新しい明峰中となる。

本年度は、「生徒が輝く楽しい学校」をスローガンに、「学ぶ楽しさ、頑張る楽しさ、できる楽しさ」を生徒一人一人に味わわせようと全職員で取り組んできた。次年度は、再統合により、さらに生徒が輝きを増し、

る、の具体策を視点として自己指導力の育成に取り組み。

チーム学校と言われて久しいが、経験にかかわらずすべての教職員が同じ方向で、学びの質について語り合える同僚性のある職員室づくりが第一歩である。



活力に満ちた学校となるように次のことに取り組んでいく。

一 深い学びのある授業

今年度、「対話のある授業」をキーワードに生徒との対話、生徒同士の対話を大切にし、知識伝達型の授業ではなく、生徒の学び合いを大切にしたい授業を各教科で展開するように意識して取り組んできた。その結果、生徒の表現力に向上が見られた。来年度は、さらに深い学びができるように、

教材構成や学び方の工夫改善を図り、学びの質を上げたいと考える。そして、その一端を市教育研究会指定の発表会で公開する。

二 保護者・地域に信頼される明峰中の維持・発展

新たな明峰中の学区面積は、茨城県で二番目に広い常陸天宮市の五二%を占め、旧美和村、旧緒川村、旧御前山村の全部が学区となる。歴史も文化も異なる地域が一つになる。これまで各地域が守ってきた伝統を踏まえ、さらに校訓『郷土を愛し共に磨き 未来を拓く』を具現化できるような学校経営を行っていききたい。

そのためには、生徒の健全育成を第一に据えた取組が何よりも大切だと考える。生徒が輝き楽しい学校生活を送っていれば、保護者は安心し学校に信頼を寄せる。そして、地域の公立学校として盤石な明峰中になると確信する。



# 教師が一丸となって子どもに寄り添うために

北茨城・平潟小 齊藤 一栄

本校は、福島県との県境に位置する児童数一七四名の学校である。保護者や地域の方々は学校に関心も高く協力的である。本年度の組織目標である「基礎基本の定着」「自己肯定感や自己有用感の醸成」「チーム学校の協働体制の確立」を目指し日々の実践にあたっている。今年度は、プロジェクトチーム訪問等を活用し、算数科を中心に授業の改善を行ってきた。相互

の進め方や資料の活用の仕方を研修したり確認したりした。

特に、児童の主體的な活動を中心とした授業の展開や、個に応じたきめ細やかな指導を研究してきた。本年度の成果と課題を整理し、次年度は、次の二点に留意して全職員で取り組んでいく。

- 一 チームで取り組む少人数指導と個別指導

算数科では、T T指導と少人数指導を引き続き実施する。体験的・問題解決的な学習を重視し、主體的な授業の実践を図る。授業の中で「伝え合い・学び合い」を積極的に取り入れる。職員研修を計画的に進め、

模範授業や模擬授業を行うことで、授業力の向上を図る。補充学習の時間を週時程の中にモジュール的に組み入れ、全職員で個別指導にあたる。

- 二 ユニバーサルデザインの視点に基づく学級経営

自己肯定感や自己有用感を育むためには、学級の中で見えてくる児童の困り感や児童一人一人の教育的ニーズを教職員全体で把握していく必要がある。そのため、学校全体で支援できる体制を確立する。特別支援教育コーディネーターを中心に、教室環境や学級ルールづくりを進める。誰もが安心して授業に臨み、自分の力を発揮できる学級を目指し、邁進していきたい。



# 学力向上と望ましい人間関係の育成を目指して

潮来・潮来第一中 根本 政世士

本校は、潮来市の市街地に臨む高台に位置し、生徒数は一八四名である。「確かな学力を身に付け、個性と創造性に富んだ、心豊かでたくましい生徒の育成」を教育目標とし、全職員で知・徳・体の調和の取れた教育活動の展開に努めている。

- 一 学力向上に向けた授業改善

三年前から、全教科共通の課題を設定し、継続して授業改善のための研究に取り組んできた。授業スタイルの確立、学び合う必然性のある課題設定、思考ツールの活用等の手立てにより、一定の成果が上がった。

さらに主體的・対話的で深い学びを実現するために、授業開始三分前から位置付けている「ウォームアップタイム」を充実させ、授業の円滑な導入を図る。また、全体で意見を交流する場面における教師の「問い返し」の質を向上させ、生徒一人一人の考えを深めさせる。いずれも教師の十分な教材研究が不可欠であり、授業力を向上させることで、生徒一人一人の学力向上に結び付けていく。

- 二 望ましい人間関係の育成

不登校、いじめ、ネット上の

トラブルなど、生徒指導上の課題が多い。心の教育を推進し、教科となる道徳の授業の充実を図る。また、学級を基盤とし、生徒会活動や学校行事などにおいて、生徒一人一人が主体となり、互いの良さを認め合いながら望ましい人間関係を築けるよううにしていくな。そのため、教師が生徒の居場所を確保し、生徒同士が絆を深められるような活動を展開していく。

# 霞ヶ浦南小スタンダードの確立

かすみがうら・霞ヶ浦南小 羽鳥 親夫

本校は、統合開校三年目である。東西約一kmの広範囲な学区から、児童約四〇〇名がスクールバス等で通学する。統合後三年間で創意工夫された教育活動を推進し、統合して良かったと家庭や地域に信頼を得ることが課題である。

- 一 主体性を育む授業の改善

中規模校の教育活動には、自ずと多様性が生まれ、児童は切磋琢磨して成長ができる。そんなメリットを生かすためには、教

各課題の具体的な手立てを、全職員から意見として吸い上げ、ボトムアップ的に組み立てていくことにより、共通理解、共通実践ができるよう、全職員一丸となって課題改善に取り組んでいく。



職員の指導力の向上は欠かすことができない。本校では、若手とベテランの二極化という課題がある。そのために「論理的思考力の育成」を研究テーマに掲げ、市教育研究会指定発表やブラッシュアップ研修等で研修を積んだ内容の実践化を図る。「求める研修」への転換を実現し、スキルの伝承や最新の知識技能を学び、授業の改善を図る。

- 二 安全安心の確立

二km圏内の徒歩通学とバス通

学の安全安心のために、家庭や関係機関と連携した通学管理体制づくりを推進する。特に、約七割が利用するバス通学に関しては、バス停までの通学路や乗車中の約束等、公共交通機関の利用マナーの指導の好機と捉え、関係者と定期的に協議し共通理解と実践化を図る。

### 三 小中一貫教育の推進

次年度は、本市小中一貫教育基本方針により、一貫教育の「開始期」を迎える。霞ヶ浦中学校区の教育目標と目指す子供像、グラウンドデザインを策定し実践化を図る。本年度各部会で実践した活動を社会に開かれた教育課程に反映させ、中核となる愛郷・キャリア教育を推進する。

児童の変容の姿を家庭や地域に自信をもって示し、信頼を得ることができるよう教職員一丸となり「霞ヶ浦南小学校スタンダード」の確立に取り組む。



## 自ら学ぶ児童の育成と交流授業

つくばみらい・三島小 宮崎 淳司

本校は、つくばみらい市の南部に位置し周囲を水田に囲まれた全児童六二名の小規模校である。学年の児童数が八〜一六名、複式学級を含む単学級である。穏やかで素直な児童たちであるが、人間関係が狭く固定化されており、競い合う中で互いに成長する機会に乏しい。そのような実態から本校では、目指す子供の姿として「自ら学ぶ子」を掲げている。

### 一 「主体的・対話的で深い学び」への授業改善

本校では、児童が主体的に学んでいる姿を「①興味や関心をもっていること②見通しをもっていること③粘り強く取り組んでいること④自分の学びの振り返りができること」と捉え、授業研究に取り組んできた。そして、学習課題を解決する必要性・必然性を児童に感じさせる状況をつくり出すために導入や学習課題などの工夫をした。様々な手立てを考えてきたが、本時だけでなく、児童が「学び」に向かう動機付けも大切にしたい。

### 二 小学校統廃合を見据えた交流授業の実施

本市では、複式学級の解消を最優先とした教育施設の適正配置が計画されている。そのため、統合を見据えて交流授業を実施している。中・高学年で校外学習を共同実施して交流を図っているが、特に五年生では宿泊学習を共同実施し、交流を深めた。

八人しかいない児童だけでできることには限界があり、教師の支援が必要な場面が多々あった。しかし、他校の児童と力を合わせることで児童だけで成し

## 主体的・対話的な学びと豊かな心と夢を育む特別活動の推進

猿島郡・静小 市村 英二



本校は利根川のほとりに位置し、周囲を豊かな田園に囲まれた児童数一〇六名の小規模校である。今年創立一三〇周年を迎え、地域や保護者の学校に対する関心は高く協力的である。この恵まれた教育環境のもと、次年度は新学習指導要領を踏まえた授業づくりと心を育てる特別活動の充実を進めていきたい。

### 一 対話的に学ぶ授業づくり

本校では、昨年度から言語活動

遂げられることが増え、成長を実感させることもできた。来年度は、行事での交流に加えて、道徳や学級会、音楽など教室での学習でも交流授業を実施したい。

### 活動の推進

境町では、特別活動の中に「リーダーシップ教育」を位置付け町全体で研究を進めている。本校のような小規模校では児童に目が届きやすい反面、人間関係や相互の評価が固定化しやすいという課題がある。児童は「リーダー・イン・ミー」の学習を通して誰もがリーダーになれることを学んできた。係や委員会、集会活動等で活躍する場面を増やすことが児童の社会性の育成にも役立つ。また、縦割り班による異学年の交流も自己有用感を育むための重要な活動である。この特別活動の充実を通して豊かな心と夢を育む学校づくりを推進していきたい。



の充実を目指し「めあてに向かつて主体的・対話的に学び、自らの考えを表現できる児童の育成」をテーマに校内研修に取り組んできた。今年度は、特に対話的な学びを重視した国語の授業研究を行い、発達段階に応じた交流活動が活発になってきた。移行期の今、各教科で児童が話し合いの中から自分の考えを広げ、深める授業への改善が必須である。本校の授業マニュアルとして

### 課題



## 「見える化」で働き方改革？

県学校長会副会長 豊田 昌幸  
(銚田・銚田北小)

コロナを使った掃除が好きです。コロナを持って校内を歩き回っています。床やマットの上を転がすと髪の毛や埃が驚くほどくっついてきます。成果が見えるという気持ちになります。「きれいになった。」と二人悦に入っています。コロナを転がしながら各教室も覗いています。毎日のことなので先生方も子供たちも気にしません。

たくさんのホワイトボードが教室をぐるりと囲み、それぞれのホワイトボードの前で子供たちが活発に話し合っています。ホワイトボードには思考ツールと呼ばれている図形が貼られ、そこにキーワード的な短い言葉が書き込まれています。グループワークからクラスワークに移ることを告げる担任の先生の声の後、子供たちは席に戻り、クラス全体での話し合いが始まります。子供たちの発言がリレーのように繋がり、考えがまとまっています。先生は、質問したり、子供たちの発言を交通整理したりだけで教え込むような姿はありません。子供たちの

さんの声を寄せてくださいました。一例を紹介します。

対話を中心に学習が進められています。この二年間で本校の授業は大きく変わりました。

「どうして変わったのですか。」とよく聞かれます。もともとらしいことを答えています

が、本当のことは分かりませんが、先生方が頑張り、力を付けたことまでは確かですが、その先の「なぜ？」の答えがはっきりしないからです。

敢えて言えば、「見える化」を図ったからかもしれません。モデルさんに「美しくなる秘訣は？」と尋ねると、多くの方が「人に見られるからです。」と答えるそうです。

本校は、この二年間で授業を公開する機会をたくさんいただきました。授業力向上ブラッシュアップ研修重点校、市学力向上研修会、中堅養護教諭(前期)資質向上研修講座、地区別学力向上研修会、集合指導訪問…。

校外から多くの先生方が訪れ、本校の先生方の授業を参観し、取組の良さやステップアップするためのヒントなど、たく

「四年生のごんぎつね、見応えのある素晴らしい授業でした。離れられませんでした。子供の意見を引き出し、みんなが一生懸命考えていました。」

本校の先生はたたくさんの先生方に見られ、認められ、励まされ、美しくなってきた(力を付けた)ように思います。

「きつと夜も遅くまで研修をさせられ、先生方は疲れ切っているのでは？」と思うかもしれませんが、私から見ると、先生方は元気で、職員室の雰囲気も悪くないように思います。

勤務時間は、この三年間で大きく改善されました。平成二八年一〇月の時間外勤務の一人平均が八〇時間台半ばであったのに対し、今年度の一〇月は五〇時間台まで短縮されました。

「見える化」で、先生が力を付け、働き方改革が進むというシナリオは、あまりにも単純過ぎて、一般解になりませんが、一つ一つの出来事は事実です。

今のよい状況が校長の手腕として他校でも再現できるかどうか分かりません。幸運だったのかも知れません。今年退職、時間切れです。職員には感謝です。

## 感性豊かにキャリア人生を送れるような仕組みの構築

古河・古河第六小 大里 充孝

### 二 学校行事の精選

冷え込んだある朝、二年生の女の子が「校長先生これ見て！」と言って走ってきた。見ると、掌にそっと乗せられた霜の降りた落ち葉に、太陽の光が当たってキラキラと輝いている。しかし、その子の感性に浸っていたが、今の自分にこんな感性があるだろうか疑問に思い、ふと、我に返った。学校は、今、様々な課題を抱えている。これを取り越えていくためには、教師の感性と想像力が必要だろう。次年度は、教師の感性と想像力を磨く環境をつくることを念頭に置き、次のことに取り組む。

一 教職員のキャリアステージに応じた人材育成計画の作成  
長期の見通しをもち、自己変革を促すために、教職員のキャリアステージを見通した人材育成計画を作成する。計画には、人材育成の意図や計画を示し、自分自身の成長を明確にイメージできるような期限を付けた五つの段階を設ける。活用の際には、「茨城県公立の小学校等の校長及び教員の資質の向上に関する指標」(茨城県教育委員会、平成三〇年二月)を併用する。



成三〇年二月)を併用する。

特集2

# 危機管理体制の整備と 学校安全の確保

## 地域関係機関等と連携した 交通安全の推進

那珂・菅谷小 猪野 睦美

### 一 はじめに

本校の学区は車の交通量が非常に多いうえに、学区内を平行して走る国道と県道をつなぐ狭い市道が抜け道として使われることが多いため、交通事故の防止が重要な課題となっている。

その課題へは、教職員や保護者だけでなく、地域の自治会や個人ボランティアの方たちが積極的に対応してくださっている。その実践の一端を紹介したい。

### 二 具体的な取組

(一) 一・二年児童、保護者、交通指導ボランティア対象の交通安全教室(四月)  
那珂警察署交通課の方を



講師に招き、児童には障害物がある場合の道路の歩き方等を、保護者や交通指導ボランティアの方たちには、歩行者だけでなく、ドライバーの方たちにも配慮した心の通い合う立哨指導の方法を具体的に指導していただいた。《写真》

(二) 地域交通指導ボランティアによる立哨指導  
学区内各地区自治会の防災防犯部会の方たちが中心になって、登下校時の立哨指導を行ってくださっている。

また、今年度は、ブロック塀の危険度調査を含む通学路点検にも同行していただいた。そして、危険と判断された事案には、市役所や住民の方に改善への協力依頼を積極的に行ってきた。

### 三 おわりに

一学期に、保護者から自宅近くの交差点で立哨指導を行いたいとの申し出があった。その際には、

菅谷地区まちづくり委員会事務局の方が市役所と交渉し、通学路の看板の掲示や交通安全を呼びかける旗の設置に尽力してください

## 生徒の安全確保のために

高萩・高萩中 八重樫 一夫

本校は、海岸から三〇〇メートルの位置にあり、海拔二七メートルと標高が低い。また、国道六号線に沿うように校地があり、JR常磐線が学区内を南北に走っている。JR高萩駅の周辺には、商店街や繁華街があり、通学路でもある。

そこで、東日本大震災を教訓とした津波からの避難訓練と、通学路等の安全指導を中心とした本校の危機管理についての取組を紹介したい。

### 一 津波対応の避難訓練の実施

「午前八時三〇分に地震が発生し、津波警報が発令された。」との想定で訓練を行った。まず、一次避難として通常の避難経路に沿って教室から校庭に避難し、その後、二次避難としての移動である。津波から逃れるために、約二キロメートル離れた、高台の小学校までの道のりを、徒歩による学級単位での避難行動である。全校生徒約三〇〇人の移動になるので、

二コースに分かれての避難となった。

### 二 登下校指導の徹底

年度当初に、年間の登校指導日を設定した。実施日は、部活動のない日として、八ヶ所の指導場所で行っている。交通量の多い道路や見通しの悪い交差点での現場指導を徹底し、集会時には生徒の様子について共通理解を図り注意喚起に努めている。

また、下校指導は、原則毎日実施している。各担当場所に職員を二人ずつ配置し、スムーズで安全な下校を呼びかけている。

### 三 終わりに

生徒の安全確保は、学校の最優先課題である。危機意識を高く維持し、危険予知・回避能力を



さった。今後も保護者や地域の関係機関と手を携えて児童たちの交通安全の推進に努めたい。

## 学校と地域が 連携した防災 体制づくり

行方・玉造中 小野口 吉政

今年度、本校は「地域と学校とが連携した防災教育事業モデル校」として防災教育に取り組んできた。また、活動を通して生徒には地域の一人であることが再確認し、災害時に自ら適切に判断し、主体的に行動できる生徒の育成を図っていきたいと考えた。以下、本校の今年度の取組を紹介したい。

### 一 地域防災ネットワーク会議

年二回、行政、学校、市民団体等と一緒に、研修、意見交換を行った。この会議を通して、地域の組織が互いに連携して防災に取り組む意識を高める機会となった。

### 二 防災教育プログラムの実施

学校が実施する防災教育プログラムに行政、市民団体等が参加し、災害時の避難所運営について確認することができた。

○地域防災に関する講演会

大学の講師を招いての「災害時の避難所運営」につ



HUG (避難所開設ゲーム)

いての話を聞き、中学生も地域の一員として貢献する態度を育成することができた。

○HUG (避難所運営ゲーム)体験

中学生、行政、地域住民が一つのグループになり、HUG体験を行った。ゲームを通して、三者間のコミュニケーションもとれるようになり、それぞれの役割を確認することができた。

○避難所開設訓練

地域の消防署、消防団、行政関係者、地域住民、小・中学生合同による災害時の避難所開設の訓練を行った。中学生が地域の一員として主体的に避難所運営のスタッフとして活動することができた。

大人と一緒に活動し、防災時の地域を支える若い力として十分に貢献できる姿を見て、行政や地域の関係者も、学校における防災教育の重要性を認識することができた。

### 保護者・地域と連携した

### 学校安全の確保

石岡・林小 青木 光一

本校は児童数一三七名の小規模校であるが、PTAや林地区(世帯数一〇四〇)の二の団体や関係機関の大きな協力を得て児童の安全確保に努めている。

#### 一 学校安全への取組

関係団体と連携し、以下の取組を実施している。あいさつ声かけ運動(青少年を育てる市民の会・民間交通指導員・子ども会・交通安全協会)・交通安全指導(職員・保護者)・引き渡し避難訓練・交通安全教室(石岡警察署)・携帯スマホ教室(NTTドコモ)・着衣水泳(スポーツプラザヤマシン)・AED講習会(石岡消防署)安全看板取り付け(保護者)・シェイクアウト訓練・避難訓練(火災・不審者(石岡警察署)・地震)・いのちの授業(産科医)・石岡市いじめ防止フォーラムへの参加・人権集会・薬物乱用防止教室・安全点検・生徒指導委員会(毎月全職員)

#### 二 防災教育と防災組織

平成二八年度に本校が「地域と学校が連携した防災教育事業モデル校」に指定された。児童が地域の防災マップを作成したり、防災体験学習を行ったりした。

防災訓練には五〇〇人以上の地域住民が参加した。これをきっかけに、「林小学校区自主防災会」が立ち上げられた。さらにPTAでは「災害ボランティア」(登録者六五人)を設けて、災害時に送迎車の交通誘導、がれき除去、人が人の応急救護などを行う組織を作った。連絡手段はメーリングリストを活用する。そして現在、学校の避難訓練とボランティアの研修会を連動させるなど、地域の連携を深めている。

#### 三 今後の課題

安全な学校をつくっていくために教師・児童・地域の一人一人が危機意識をもって行動し、お互いにサポートしていききたい。今後とも努力していきたい。



### 学校安全の確保と見直し

猿島・長田小 野口 修

#### 一 はじめに

学校の安全管理は、事故の要因となる学校環境や児童生徒の生活等における危険を早期に発見し、それらの危険を速やかに除去することである。そのため、学校や地域の現状を正確に把握して対処していく必要がある。

#### 二 本校の現状と見直し

本校は、住宅地と田園からなる穏やかな地域で、児童は素直で保護者も協力的である。そして、昨年の圏央道開通により、ICから数百メートルにある本校付近では、交通量が増え、新しい道路の工事も行われている。

そこで、登下校の安全を確保する上で、まず行ったことは、安全マップの見直しである。新しい道路や交通量を確認し、保護者や地域の方からも意見を聞いて作成した。特に、今年度は、交通量と不審者、ブロック塀を重視し、次の内容を加えることで意識を高めることができた。

○車多くスピード車注意

○不審者注意・見通しが悪い

○地震時注意・塀等に注意

次に、避難訓練では不審者対応で見直しを行った。避難経路

の確認後、通学路等で不審者らしき人に声をかけられた場合の対処法を学んだ。二、六年生の代表児童と職員で気になるケースでロールプレイングを行い、警察署の方の指導をいただくことで、普段からの危機意識を高めることができた。今回は、次の五ケースを行った。

- ①公園で近寄ってきた人
- ②待ち伏せをしていた人
- ③車中から声をかけてきた人
- ④知らない人の訪問や電話
- ⑤道路でバットを持った人

#### 三 おわりに

今後、新しい情報をもとにした現状の把握と安全確保の見直しを繰り返すことで、教職員と児童の危機意識を高めていき、保護者や地域、関係機関と連携して、安全・安心な学校づくりを目指していきたい。



# 提 言 一 一 題

## P T A 活動を通じて

石岡市P T A 連絡協議会  
会長 石橋 秀文



本年度、石岡市P T A 連絡協議会会長を務めさせていただいております。石橋秀文と申します。日頃より校長先生をはじめ先生の皆様には、P T A 活動に対し、ご理解とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

例年、石岡市P T A 連絡協議会では、指導者研修会（六月）・球技大会（一〇月）の二つの事業をメインに活動しており、その中でも球技大会（ソフトバレーボール）は、約六〇〇名の参加者のもと、会員間の親睦を図る事ができ大いに盛り上がる事業となっております。さて、みなさんは最初にP T A 役員を受けたきっかけは、

どのようなだったでしょう。最初

から志を高くもって、活動されはじめた方が多いかと思えますが、私は先輩にハイカYESの返事しかできない状況のなか始まったので、初めの頃はあまり楽しくありませんでした。しかし、この様な機会がなければ、学校の事に無関心だったと思えます。P T A に関わる事によって子供たちの事をより知ることができ、また沢山の楽しい仲間も増えて、本当に活動してきてよかったと思えます。誘ってくれた先輩には大変感謝しております。

みなさん家事や仕事の合間の忙しいなか、P T A 活動をしていて苦労があるかと思えます。全ては子供たちが安心安全に、そして気持ちよく学校生活を送れるよう、志を同じくするみなさんと共にP T A を盛り上げて行きたいと思えますので、今後とも宜しくお願いいたします。

## 共に歩むP T A

桜川市P T A 連絡協議会  
会長 重村 秀一



今年度、桜川市P T A 連絡協議会の会長を務めさせていただいております。重村と申します。日頃より、校長先生をはじめ、各学校関係者の皆様には、P T A 活動にご理解とご協力をいただきまして誠にありがとうございます。

我が桜川市P 連は、市内小学校九校、中学校五校で成り立っております。また、P T A 会員数は約二六〇〇人程で県内の中では小規模ではありますが、各単位P T A の熱心な会員のご協力のもと市P 連活動も成り立っております。

主な活動としては、市単独での指導者研修会や地区の指導者研修会の開催、女性ネットワーク委員会の支援、そして年四回程度、役員会と理事会を開催

し、学校間の情報交換を積極的に行っております。また、県P 連の慈善事業であります書き損じはがき回収活動では、五年連続達成することができました。市内各学校の先生と保護者の皆様には毎年ご協力いただき、あらためて感謝を申し上げます。

さて、私がP T A 活動に携わることになったのは長男が小学校に入学すると同時進行でした。当時の私は、仕事も含めて様々な団体の活動に関わり、家に居る時間が限られ、子供たちと触れ合う時間が少ない父親でした。正直なところ、市P 連会長を務めている今も現状は変わりません。当初は、出られる範囲で頑張ろうという思いでしたが、徐々に思いも変わりました。それまでは家で話す機会が少なかつた父親でしたが、学校という共通のコミュニケーションツールを得ることができました。私の子供の成長、同じクラスの子供たちの成長、そして学校全ての子供たちの成長を肌で感じる事ができました。市内の少子化に伴い、各学校の児童生徒数は減少の一途ではありま

すが、日頃から子供たちを見守ってくださる地域の皆様と、連携をより一層深めることで、子供たちが安全で安心して学べる学校環境を維持できると確信しております。

本年度の指導者研修会では直近の課題であるインターネットの普及に伴う様々な問題を取り上げ、親として子供たちと、どう関わったらよいかを学ぶことができました。また、それに関連して子供たちの不登校が増えている現状を重く受け止め、これからの学校や家庭の在り方について学ぶ機会を市P 連として提供していくことが今後の課題だと思っております。

現在、市P 連会長の役割以外に市の保護者代表として様々な会議に参加し、学ぶ機会をいただきました。今後も「子供たちの明るい未来の実現」を第一に、行政との連携を密にし、P T A 会員の希望に沿った活動を務めて参りたいと思っております。



### 特別寄稿



## 音楽の力

豊かな人間性や感性を育むために

那珂市教育委員会  
教育長 大縄 久雄

皆さんにとって心に残る音楽とは何ですか。一曲あげてくださいと言われたら、それはどのような音楽ですか。

私には、教員九年目にして初めて中学校に赴任したときの、合唱コンクールでの自由曲が思い出されます。クラスの子供たちと選んだ一曲は、『あの素晴らしい愛をもう一度』でした。子供たちから、「この曲がいい。この曲を歌いたい。」という要望があり、全員一致で決定し、本番に臨みました。結果は、学年最優秀賞。子供たちと一緒に喜んだことは、今でもはっきりと覚えています。

音楽には、不思議な力があります。そしてまた、正直です。私たちの心理状態に合わせ、優しく語りかけてくれたり、慰めてくれたり、時には、黙って人生のいろいろなことを教えてくれたりします。

このように、音楽の力には、大きいものがあります。私たちは、それをうまく活用すること

によって、いろいろな問題を解決したり、人生をより潤いのあるものにしたりにしていることと、思います。

私事ですが、童謡、唱歌、歌謡曲など、曲名を聴くと、出だしの詞とメロディーが浮かんできて、つい、口ずさんでしまうことがあります。自分で自分が感動することがあります。

例えば、二〇一八年は、童謡誕生から一〇〇周年を迎えました。皆さんの好きな童謡は何ですか？どのくらい歌えますか？すぐに口ずさめる歌、聴いたこととはあるけれど曲名が思い出せない等々。童謡には、四季折々の情景の美しさや家族の情景が描かれているものが多く、感動を覚えます。

最近、思い出のメロディー、昭和の歌、平成の歌と称する音楽番組が多くなったように感じます。音楽を聴いていると、自然と涙がにじんでくることがあります。音楽を介して、愛情や優しさ、生きる力などが伝わ

てきます。それは、同時に、音楽のもつ力の大きさを物語っているのではないかと感じています。懐古趣味だとか、年輩いたからだと受け取られると、とても残念です。いい音楽は、いつの時代にも、誰にも愛され、歌い継がれるものです。

これから時代は、グローバル化の進展や技術革新等により、社会がめまぐるしく大きく変化を遂げることでしよう。次世代の子供たちに、人や自然への優しさ、心配り等を大切にした音楽を伝えていく努力を、我々大人がしていかなければなりません。

教育においても、言葉や体験を重視して、子供たちに豊かな人間性や感性を育てることが求められています。と同時に、我々大人（教職員）にも同じことが求められているのだと強く思います。

日々、現場で、児童生徒、保護者や教職員と向き合っていることを考えるとき、人との関わりを大切に、信頼を得るには、やはり、豊かな人間性と感性を備えた人間になることを惜しんではなりません。心から皆さんにエールを送ります。そして、私自身にも『常に感性豊かな人間であれ！』

# 研 修 報 告

## 第七〇回全連小 北海道大会に参加して

水戸・吉田小  
堀江 俊夫

全連小北海道大会が二〇月四・五日の二日間、函館アリーナを主会場に開催され、茨城県団五一名が参加しました。

初日の開会式に続き、文部科学省初等中等教育局教育課程課長から、今後の教育政策の方向性を示す講話がありました。午後には、五領域二三分科会に分かれ、提言をもとに学校運営上の課題、校長として果たすべき役割と指導性について活発な協議が展開され、意義ある充実した分科会となりました。

最終日には、「ふるさと・挑戦・未来創造」をテーマにシンポジウムが開かれました。

北海道小学校長会、函館市小学校長会の皆様の連携、ご尽力、献身的な運営とそれを支える団結力により、すばらしい大会となりました。そして、今後の教育活動に活かすことのできる大きな成果を収められたこと、ただただ感謝するばかりです。大会から学び得たことを今後の学校経営に活かしていくことをお誓いして参加報告とします。

## 第八九回全日中鳥取 (米子)大会に参加して

那珂・第四中  
小宮 隆春

一〇月二四日～二六日、第六九回全日本中学校長会研究協議会が鳥取県米子市にて盛大に開催されました。本県からは、伴敦夫県学校長会会長を団長として二六名が参加しました。

一日目は理事会・運営委員会等が行われ、二日目は文科省大臣官房審議官の下間泰行氏より第三期教育基本計画の概要が示された。今後の教育施策の方向性等の講話がありました。その後全体協議として全日中提案や地区提案がされ、午後は五会場八分科会に分かれ各提案を踏まえ活発な研究協議が実施されました。そして、最終日は大山(だいせん)僧兵太鼓が披露され、辰野勇氏による記念講演が行われました。

株式会社モンベル代表取締役会長として現在も多方面でご活躍され、「夢と冒険／今リーダーに求められる力」の演題のもと、熱い思いを語られました。

本年開山千三百年を迎える大山(だいせん)等、雄大な大自然の中で学び得たものを今後の学校経営に活かしたいと思います。

# ブロック研修会から

新しい時代を拓く、  
心豊かな日本人の育成

水戸・第二中  
永田 博

今年度の中央ブロック校長研修会は、十一月二日（金）「新しい時代を拓く、心豊かな日本人の育成」のテーマのもと、教育プラザいばらきを会場に一七〇名を超える会員の参加を得て開催することができた。（今年から会場は、教育プラザいばらきに固定することとした。）

この研修会の趣旨は、「県学校長会の職能研修活動の目標に則し、研究発表、協議等により、校長としての資質向上を図り、本県教育の充実発展に寄与する。」ことだ。

今年度は、六分科会に分かれ、それぞれ提案者の校長先生から発表をいただいた。提案者の校長先生は、第一分科会、東海村立東海南中の飛田順一校長先生。第二分科会、大子町立袋田小の河西勲校長先生。第三分科会は、ひたちなか市立勝田第二中の中村純治校長先生。第四分科会は、水戸市立堀原小の川又宏文校長先生。第五分科会は、笠間市立岩間第二小の飯村稔校



長先生。第六分科会は、茨城町立葵小の米川順子校長先生であつた。どの発表内容も課題に真正面から取り組んだ実践の発表や新たな視点に立った貴重な提案がなされた。各分科会では活発な意見の交換が行われ、会員にとって有意義な研修の時間となつた。

結びに、ご多用の折にもかかわらず示唆に富んだ指導助言を与えてくださった水戸教育事務所所長稲野邊親様はじめ人事課の皆様、並びに開催にあたりご協力をいただいた、中央ブロック校長会評議員の皆様、研究推進委員の皆様、当日の係を担当してくださった皆様に改めて心より感謝を申し上げます。

## 創意と活力に満ちた学校づくりのための校長の役割

常陸太田・太田中  
篠原 陽一

茨城県県北ブロック学校長研究協議会が、一〇月三〇日に県北生涯学習センターを会場に、「創意と活力に満ちた学校づくりのための校長の役割」の県北学校長会の研究主題のもと、講師として、茨城県教育庁学校教育課長岩田利美様、来賓として県北教育事務所長鈴木稔様、助言者として同学校教育課長小松昭徳様、同人事課管理主事平子剛之様、同小泉一彦様をお願いし開催された。

はじめに、講話として茨城県教育庁学校教育課長岩田利美様より「創意と活力に満ちた学校づくりのための校長の役割」の演題で示唆に富むご講話をいただいた。その後分科会での提案発表に基づいて研究協議が行われた。第一分科会の提案発表は、日立市立坂本小学校武石洋校長が「人を生かし、人を育てる『組織マネジメント』を生かして」の副題で行った。第二分科会の提案発表は、高萩市立秋山小学校岡部晃美校長が「秋山コミュニティ・スクールの取組を生かした地域とともにある学校づくりを通して」の副



題で行った。第三分科会の提案発表は、日立市立河原中学校榊雅彦校長が「組織を生かした学校経営力の向上とコーチングによる人材育成を通して」の副題で行った。協議の中では、校内研修の在り方や若手・中堅・ベテラン等の世代別のやる気や指導力の向上について活発な意見が交わされた。各校の特色ある取組等の情報交換も行われ、小中各学校が抱える様々な課題の解決に迫る方策や具体的な校長の役割について、共有化を図る貴重な時間にもなった。最後に各分科会毎に助言者の先生より貴重なご助言をいただき、研修を終了することができた。

## 創意と活力に満ちた学校経営

行方・麻生中  
青木 利宏

今年度の県東ブロック校長研修会は、八月一日（水）「創意と活力に満ちた学校経営」をテーマに、レイクエコー・茨城県女性プラザにおいて開催された。分散会では、茨城県鹿行教育事務所人事課の先生方を講師として、三名の提案発表をもとに、各学校の取組から課題を明確にして、研究協議を行った。

第一分散会（二九名）

「学校じまんプロジェクトを中心とする異校種間の連携を通して」  
神栖・大野原西小  
佐藤 雅彦

第二分散会（二二名）

「整備されたICTを活用するために」  
鉦田・白鳥西小  
五十野 亀久雄

第三分散会（二六名）

「改善を伝統にする学校を目指して」  
行方・北浦中 坂上 彰弘

全体会に引き続き、教育研究家で、中教審「学校における働き方改革特別部会」委員の妹尾昌俊先生に、「今こそ大切にしたい学校のビジョン、戦略、働



き方」と題して、ご講演をいただいた。

今後、取り組むべき喫緊の課題である学校の業務改善と、教職員の長時間労働解消に向けた校長のリーダーシップについて、具体的なデータや事例をもとに、参加者が互いの考えを交流し合う場面も設けていただき、事後のアンケートからは、「タイムリーな課題で興味深い内容であった。」「講演内容のポイントを校内研修で全教職員で共有したい。」等の感想が寄せられた。結びに、今回の研修会に当たりご指導いただいた茨城県鹿行教育事務所の長村田武彦様、同次長兼人事課長安藤光弘様、管理主事辻野敦子様、関根康裕様に改めて感謝を申し上げます。

**一人一人が輝く活力ある学校づくりのための校長の役割**  
龍ヶ崎・城南中  
塩幡 克三

県南ブロック研修会は、一月二三日（火）に茨城県県南生涯学習センターにおいて開催された。県南管内の小中学校・義務教育学校、二一六名の会員が六つの分科会に分かれ、「一人一人が輝く活力ある学校づくりのための校長の役割」を研究主題とし、提案発表に基づいて協議が行われた。

来賓として県南市町村教育長連絡協議会長・土浦市教育委員会教育長井坂隆様、講師として茨城県教育庁学校教育部義務教育課管理主事石塚康英様、県南教育事務所長長谷川真人様をはじめ九名の先生方に全体会・分科会のご指導をいただいた。

分科会では、六名の先生方より、地域の特性を生かした教育活動についての発表があった。どの分科会においても活発な意見交換があり、学校づくりにおける校長の役割の重要性を感じられる充実した研修であった。

第一分科会  
「創意を生かした特色ある教育課程の編成と実施」  
龍ヶ崎・川原代小  
木野内 茂樹



**創意と自校の実情を生かした学校経営の研究と実践**  
坂東・岩井第一小  
倉持 美由紀

第二分科会  
「基礎・基本の確実な定着と一人一人を生かす学習指導」  
土浦・第六中 小島 勝則  
第三分科会  
「多様な体験活動を生かした心を育てる教育」  
かすみがうら・下稻吉小 松信 登

第四分科会  
「規範意識を育て豊かな人間性や社会性を育む生徒指導」  
守谷・大井沢小 渡辺 幸夫  
第五分科会  
「家庭・地域社会の教育力を生かし、共に新しい学校づくりを目指す連携の在り方」  
つくば・豊里中 茂在 哲司

第六分科会  
「人間性と専門性を高め、教職員の意識改革を促す現職教育」  
石岡・北小 根本 俊彦

県西ブロック校長研究協議会を一月一六日（火）県西生涯学習センターで開催した。来賓として、県西教育事務所長栗原恵子様、市町教育長代表赤荻利夫様、県学校長会副会長鈴木悟様のご臨席を賜り、県西管内各小・中・義務教育学校一五〇名が一堂に会し、「創意と自校の実情を生かした学校経営の研究と実践」をテーマに研修を行った。

分科会では、講師として県西教育事務所の五名の先生方に指導助言をいただいた。小学校三分科会、中学校二分科会に分かれ、各校の提案発表に基づいて熱心な研究協議が行われた。参加者にとって、今後の学校経営の指針と示唆にあふれた充実した研修となった。発表者と副主

題は次のとおりである。  
小学校第一分科会  
「『ひらく』と『つなぐ』をキーワードとして」  
坂東・神大実小 渡辺 信之  
小学校第二分科会  
「基礎・基本の定着を軸に、意識化を図る」  
筑西・関城東小 白石 久美子

小学校第三分科会  
「人の役に立つ喜びを知る子の育成を目指して」  
下妻・大形小 宮田 真理子  
中学校第一分科会  
「環境のせいにするな！O B校長のささやかなチャレンジ！！」  
結城・結城南中 黒田 光浩  
中学校第二分科会  
「生徒・職員が生き生きと輝くための変革の第一歩」  
古河・総和中 町田 裕行

最後に全員の弁護士大胡田誠氏、全員のソプラノ歌手大石亜矢子氏から「決断！全員のふたりが家族をつくるときー」の演題でご講演をいただいた。澄み切った美しい歌声とお二人の笑顔と愛情あふれるお話に、会場全体が感動でいっぱいになった。



平成30年度 県西地区校長研究協議会  
大胡田誠 先生 大石 亜矢子 先生

# ひばり



水戸・吉沢小 清水 明

## 学校坂道

那珂郡・照沼小

中村 宏

作詞作曲 西口ようこ

編曲 若松正司

この坂道のぼつたら  
ぼくの学校があります  
ジャンブルジムにのぼれば海が  
まっさおに見えます  
青空に抱かれた  
ぼくの自慢の学校  
この坂道をぼくは毎朝  
風をきってかけます

本校は高台に位置し、この「学校坂道」は、本校の朝夕見られる光景にびつたり之歌である。

故に本校では、校歌とともに節目節目でよく歌われている。

私は毎朝、坂道の頂上（正門）で登校する子供たちを待つ。大きな歩幅で颯爽と歩いてくる子。高学年に後ろから押されて坂を登る子。その中で、親子で手をつなぎ、楽しそうに登校する姿もある。私は、この子が母親に「もう一人で行くから大丈夫だよ。ありがとう。」と話す場面に出会う日を楽しみに待っている。

ここは、本校在職の先輩方が必ず立ってきた場所であろう。そして、これから赴任する校長も、必ず立つ場所であろう。

## ありがとう黒沢小学校

久慈郡・黒沢小  
雨澤 尚樹

平成の終わりとともに、黒沢小学校は輝かしい歴史の幕を閉じることとなりました。創立からここまで、数多くの子供たちがここで学び、ここを巣立っていきました。地域の皆様に愛され、地域に支えられ、地域の学校としての役割を果たしてきました。

黒沢小学校最後の今年度、一四名の全校児童と九名の教職員で、「ありがとう黒沢小学校」と感謝の気持ちを込めながら一年間過ごしてまいりました。学習はもちろん、各種行事やその練習にも全力で取り組んできました。非常に少ない児童数ですが、町陸上競技大会での活躍や町音楽会で聞く人を魅了した演奏、地域の皆様と盛会に行われた大運動会など、きつとみなさんの記憶に残ったのではないかと思います。

今後、だいたいご小学校へ統合となりますが、黒沢小学校は地域の皆様・本校卒業生の皆様・児童の指導に当たられた諸先輩方等、多くの関係者の皆様の心の中に永遠に息づくものと確信しております。

## 「ねえ、ねえ」

日立・成沢小  
坂本 一成

私は、写真が好きで、時間を見つけてはカメラを持って山歩きをします。すると、いろいろな所から「ねえ、ねえ撮って」という声が聞こえてきます。そこには小さな花がぼつんと咲いていたり、小さなキノコが精一杯伸びようとしていたり。また、何気なく樹木を通り過ぎて振り返ると、新緑の葉や紅葉に光が当たり、とても素敵な表情を見せていたり。そのような時、満足するまでシャッターを切り続けます。そして、もう一度被写体を見てみると、「撮ってくれてありがとう」と被写体も満足しているように見えます。

どんな物にも良いところがあり、あまりぱつとしないで角度を変えて見ると、とても素敵に見える時があります。教員生活もあとわずか。どれだけ子どもたちの「ねえ、ねえ」に耳を傾けてきたか、どれだけ心のシャッターを切ることができたか。いま、振り返っているところです。残りの人生、いろいろな声に耳を傾け、心のシャッターを切っていきたいと思っています。

## 国際交流をとおして考える

行方・麻生東小  
花ヶ崎 圭一郎

行方市の小中学校は国際理解教育の一環として、オーストラリアの学校との交流をすすめている。本校でも九月にビクトリア州の小学生訪問団を受け入れ交流会を開いた。自分の知っている限られた英語を使い、給食を共にしたり、調理実習をしたりする中で、日豪どちらの子にも大きな体験になったと感じた。また、スカイプを通して、リアルタイムの交流も行っている。日常の暮らしの中で外国の方と接する機会がほとんどない地域においてもICTを活用できる世の中が交流を可能にしている。

これはまさに国際化時代の一つの流れであり、二〇二〇年の東京オリンピックへ向けてさらに外国人観光客が増え、働く外国人の方も増加する日本では、外国語はさらに重要となってきた。同じ年、新学習指導要領も小学校では完全実施となるが、外国語教育についても、さらに準備と実践を積み重ねていかなければならない。テレビ画面をとおして交流する子供たちの姿から改めてそう考えた。

### 笑顔を引き出すプロに学ぶ

守谷・大野小  
山田 仁巳

人工ボディ技师。NHKの番組「プロフェッショナル 仕事の流儀」で初めて知った仕事だ。血管や肌の質感までリアルに再現し、二十人以上もの体を蘇らせてこられたプロ。

福島有佳子さんは独学でこの世界に入った。指導者もなく、たった一人でもがき苦しむが、お客様からの注文は難題ばかり。期待度が高いだけに、断ると目の前で泣かれることもあったそうだ。

「笑顔のために、私は逃げない」福島さんの言葉は力強い。試行錯誤を繰り返し、必ずお客様を笑顔にしてしまう。

まさに神様。その努力の素晴らしさと研究心の高さに脱帽した。

想いを形にする秘訣は、お客様に徹底して寄り添い、心の何かを探り当てること。選択肢を提示しつつ表情を観察し、笑顔になるものは何かを読み取ることだと福島さんは語る。

私は「お客様」を「子供」にも換言できるように思えた。それぞれの想いを探り当て、笑顔になるまで寄り添う。私たちも子供の笑顔を見たくて頑張っているのだ。

「挑戦し続けること」福島さんに学び、笑顔づくりに励みたい。

### 母から学んだこと

稲敷・東中  
木村 寿

昨年、母が他界しました。その母から学んだことがあります。

一つは、子供の褒め方。私が小さい時のことです。

「母ちゃんが目をつぶって、『十』数える間に寿はパジャマが着られるかなあ？」

ものすごいスピードで着替えを終えた私は、母の肩をたたきました。目を開けた母は、

「すごいね。寿は一人で着替えられて、それも十秒で。えらい。」母に認められた子供の気持ちを察し、実際にやらせて、できたことを認め、賞賛する。子どもを褒めるには、物事の判断基準をその子のレベルでみてやる必要があることを学びました。

二つめは、物事の考え方。私が何度か続けて交通事故を起こした際、「車を買って替えたらどうか」から「お祓いが必要じゃないか」という声。そんな中で母は、「何度事故を起こしても寿が怪我をせずにすんだのは車が守ってくれたからじゃないよ。」

誰かのせいにならないで、自分の考え方を少し変えて前向きに生きる。はっとさせられました。亡き母からの教えを忘れず、教育に携わっていきます。

### 思いを引き継ぐ

桜川・猿田小  
矢口 典子

今年度、花づくりのスペシャリストで、一二年間、常に三〇〇以上のプランターを飾ってくれていた用務員さんが異動になった。全ての花を種から育て、世話をし、昨年度は県知事賞を受賞した。今後三年間の花づくりモデル校としてがんばろうという矢先の異動だった。彼女は、「体育館を花いっぱいにして、卒業式をしてあげることができなくなるととても残念だ。」と、離任式で話した。

この思いを受け継ぐべく、本年度も、全校挙げて、花づくりに取り組んできた。朝のボランティア活動で児童が花がらを摘み、次に季節の花の種を一粒ずつ教職員がまく。定植前の花苗を来客に配るのも忘れない。

その必死な取組が評価され、本年度は、全国花のまちづくりコンクール奨励賞を受賞した。花づくりの継続性と地域の活性化が選考基準だそうで、児童の家の玄関先には、児童が育てたマリーゴールドが咲いていた。

三月の卒業式は、今年も花の香り漂う見事な会場で、巣立ちゆく三人の門出を祝いたい。

### 先人の思いを「二等地賞」に込めて

結城郡・東中  
中島 洋子

本校には「一等地賞」という聞き慣れない学校賞があります。

昨年創立五〇周年を迎えた本校は、創立当時、農地として「一等地」と言われるほどの土地だったのにもかかわらず、子供たちの教育のためなら仕方ないと地域の皆様が土地や金銭を出し合って作られたそうです。当時の中学生は、農地を手放した農家の人たちのつらさや教育に寄せる願いを知っていたので、よく勉強したそうです。

平成一九年、当時の校長先生が、この先人の思いを引き継ぐうと形にしたものが「一等地賞」です。この賞は、中学校三年間を一生懸命活動し、誰もが認める優れた行いをした模範的、且つ成績優秀な生徒に贈られます。校訓「質実剛毅」や校歌にもこの先人の思いが込められているように思います。今、生徒たちは校歌にあるように「進取の気象 深淵と」素直に直向きに日々の生活を送っています。「一等地賞」にふさわしい生徒をしつかりと育てるべく、地域の宝を預かる責任の重さを日々感じていくところです。

### 読んでみませんか

#### 『峠』(上・下)

著者 司馬 遼太郎  
出版社 新潮文庫

司馬遼太郎はこの中で主人公に以下のように言わしめている。

「世は、絵で言えば一幅の画布である。そこに筆をあげて絵を描く。何を描くか、志を持って描く。それが志だ。志の高さ低さによって、男子の価値が決まる。志は塩のように溶けやすい。男子の生涯の苦渋というものはその志の高さをいかに守り

ぬくかというところにあり、それを守りぬく工夫は格別なものではなく日常茶飯の自己規律にある。ものの言い方、人との付き合い方、息の仕方、酒の飲み方、遊び方のすべてがその志を守るがための工夫によって、貫かれておらねばならぬ。」と。この「志」を「校長(としての振る舞い)」に置き換え、日々精進していきたいと考えている。

神栖・波崎第三中

木之内 英一

# 梅のかおり

—先輩校長から—



## 新採



前・笠間市立笠間小学校長  
井坂 守

新規採用は小学校。中学校保健体育で受験したが…。勤務しながらの小兔の取得に悪戦苦闘。他校の同期採用の先生方と連絡を取りながらレポート作成。夏休み中のスクーリングも四人で部屋を借りて参加。そんな中で情報交換が、小兔取得のことばかりではなく、日頃の悩みの解消や指導のことにもつながり大変役立った。

通算の勤務は、小学校も中学校も一七年、教育委員会に三年。その間、多くの先生方や保護者、地域の方々から貴重な助言や指導をいただき感謝している。特に、新採の時にある先輩から言われた「子供の姿は指導者のレベル」は、管理職となっても、

学校経営の中核とし、先生方と共に児童・生徒を中心に考えてきたことが楽しかった。

現在は、次年度開催の茨城国体に向け、笠間市国体推進室に勤務している。少しでも地域のために貢献できることに感謝している。担当のクレー射撃競技のこと、行政関係の様々な手続き・調整など、戸惑うことばかりで、たくさんの方々との情報交換や連携・協力しながら進めている。現在、第二の人生の新採。これからは楽しみだ。

## 退職後の風景



前・ひたちなか市立勝田第一中学校長  
森井 榮治

退職後、水戸教育事務所でお世話になっていきます。まだ一年経ていないのに、学校にお伺いし子供たちの活動を見たり、先生方と話をすると、自分がいたときと違った風景に映り、すごく新鮮に感じます。

これが、退職後の風景。在職中の充実感、仕事をやり終えた感が持てたからこそ、見える風景なのだと思えます。そう感じさせてくれたのは、職場の先生方はじめ、かかわっていただいた

た皆様のおかげと、感謝の気持ちでいっぱいです。

現役の時には、仕事以外目に入らなかつた風景も、今は見えます。先生方をはじめ様々な人が、地域のために、ボランティア活動をしたり、自身の健康のために趣味を楽しんだりする、生き生きとした風景です。

私も、今から自分のやりたいことを求めたいと思つていません。遅いと思われるかもしれませんが、思ったときがはじめです。可能な限り、チャレンジし、そこから見える風景を楽しみたいと思つています。

## 庭木を剪定して



前・高萩市立高萩小学校長  
落合 武

これまで庭師さんに頼り、自分では生垣の刈込の経験ぐらしかなかつた庭木の剪定。退職を機に、躑躅、梅、柿くらいはと思い、少し始めてみた。

しかし、生い茂った枝葉のどこをどう剪定すればよいのかわ

からない。ネットや本で調べながら試行錯誤。種類によって最適な時期を見計らい、外向きの芽の上で切る、立ち枝、下がりが、逆さ枝、勢いよく伸びる徒長枝は切る、といった按配で形を整えながら切り込んでいく。

すると、風通しがよくなり、木の中心に向かって光がまんべんなく当たるようになるではないか。見た目を美しくするだけでなく、栄養を効率よく吸い上げ、生長を促進させる剪定そのものが、学校経営と実によく似ていることを実感した。はたして自分は、スクラップアンドビルドにより、剪定と同様に組織の形を整え生長を促進させることで、組織の活性化、効率化、重点化を図つてこれたのか。振り返れば赤面の極みである。

年度末を迎え、各学校では次年度へ向けた剪定の時期となった。課題山積の中、英断を下し、一人一人が輝く活力ある学校づくりへの邁進を期待している。

## 退職して、感謝



前・鹿嶋市立笠間小学校長  
大槻 啓子

勤務先へ向かう朝、凜とした

紫峰を眺めると笑顔になる。

三月、私を含め四名の定年退職者は予期せぬ「卒業式」という贈り物をいただいた。私には一年生の代表児童から手作りの卒業証書が授与された。「えがおが大すぎです。これからもずっとみまもっててください。本当にありがとうございます。本当にありがとうございます。三笠小のみんななより」など有難い言葉が並んでいた。学年末の忙しい時期に計画・準備をしてくれた子供たちや先生方の思いが身に染みてうれしかった。

十一月、地域公開日に招待状をいただいた。子供たちの生き生きとした表情、成長した姿、多くの保護者・地域の方々から再会することができた。校長先生始め先生方のチームワーク。日々のご尽力が窺われ、感謝でいっぱいひとときであった。

日頃、新聞・HP・地域の方々から等、県内各校の活躍を見聞きする機会がある。その度に、校長先生方が子供たちのために奮闘する姿が思い浮かび、我が事のようにうれしくなる。

三八年間勤務できたことに感謝し、何が恩返しにつながるか模索し、できることから少しずつ笑顔で始めたいと思う。

### 悔いを残さぬよう



前・かすみがうら市立千代田中学校校長 井坂 庄衛

定年退職し、八か月が過ぎた。最後に勤務した学校が母校であり近くにあるため、毎朝のように生徒たちの登校の様子を見かける。私に気付いてくれた生徒は、「校長先生おはようございます。」と大きな声で挨拶をしてくれる。退職後も校長先生と呼ばれるのは、複雑な気分だが、やはりうれしいものである。退職までは、児童生徒や保護者そして先生方のために一生懸命努力してきたつもりであるが、どれだけ役に立ったのかは疑問である。同期の先生から教えてもらった言葉が好きで後輩の先生方に機会あるたびに話をしてきた。それは、「仕事は残してもよい、必ず後任の先生が来るから、でも仕事に悔いだけは残すな。」という言葉である。自分自身も悔いだけは残さぬよう意識して仕事をしてきたつもりであるが、毎朝出会う生徒たちを見てみると、もう少し子供たちのために何かできたのではないかと少々悔いが残っている。

### 子供たちに背中を押されて



前・つくばみらい市立伊奈東中学校校長 直井 光一

現在は、以前に勤務していた県の人権教育室で仕事をさせていた。人権感覚あふれるすばらしい仲間と充実した毎日を送っている。これからは違った立場で、悔いの残らぬよう仕事をし、有意義な生活を送っていききたいと考えている。

### 自分のマネジメント



前・常総市立鬼怒中学校校長 海老原 治夫

選曲から振付、隊形移動まで先生と子供たちが一体となって練習を繰り返して、集団行動を学んでいきます。十一月の筑波山登山では、苦しくても互いに励まし合いながら頂上に立った顔には達成感の笑顔が溢れていました。十二月から学年ごとに始まる生活発表会では、先生と子供たちが知恵を出し合い劇の台詞や動きを工夫し、小道具を作り、みんなで協力して楽しい物語を作り上げていきます。日々成長する子供たちの元気と笑顔に背中を押されている毎日です。

### 育てるといふこと



前・筑西市立下館小学校校長 飯泉 雅司

一昨年一〇月頃、地元の先輩から還暦野球の誘いがあった。以前は近所の草野球チームでプレーしたこともあるが、ここ暫くはキャッチボールすらあまり記憶がない。続けようとか頑張ろうなどと言う意気込みもなく軽い気持ちで練習に参加。お年寄りの野球だからと高を括って練習や練習試合にも出場したが、自分の不甲斐なさを改めて知らされることとなった。六〇七〇代の先輩と同じ練習で肩が痛みボールが投げられず、膝の靭帯を痛め、挙げ句の果ては脛ら脛の肉離れ。新人の私は、当初は先輩高齢者について行くのがやっとという始末。それでも九月には新潟市で行われた全国選抜大会に出場し、宿泊を共にしたチームメイトとの友好も深まった。来年も出場して、いい結果を出したい。最近意欲が出て、毎週土曜日の練習、大会等が楽しみになってきた。学生時代に味わった気持ちに似てきた。職場では週四日の勤務に慣れ、与えられた仕事にやりがいをもって取り組んでいる。人生百年時代。これからの生きがいを見つけ、自分の課題を克服しこれまでの経験をどう生かしていくか。自分のマネジメントが一番難しい気がする。

現在は再任用で相談業務にかかわっています。保護者からの相談では、話を聞くたびに本当に子供のことを思い心配していただきます。何とかよい解決方法はないだろうか、相談者の話に耳を傾ける毎日です。相談者の気持ちに寄り添い、子供のよりよい成長のために学校との仲立ちになるよう心掛けています。一方、退職後は野菜作りを始めました。農業一筋の母親に弟子入り(?)し、休日は庭先で野菜に向き合っています。畑を耕し種子をまき、枯れないように水をやり、雑草に埋もれないように草取りをする。芽は出たか、萎れていないか、大きくなったかと常に心配しており、元気に成長する姿を見るのが何よりの楽しみです。愛情をかければかけただけ、野菜は正直に成長する、まさに教育と同じでやりがいがあります。保護者や先生方からの愛情に包まれ子供たちが大きく健やかに育つように、私も野菜にたっぷりの愛情を注ぎ、たくましく立派な野菜を育てたいと思っています。



# 市町村教育委員会と学校長会

## 土浦市

### 市教育委員会との連携について

土浦・神立小  
濱田 栄一

土浦市校長会は、本年度新治学園義務教育学校が開校したことから、小学校一六校、中学校七校の計二四校で構成されている。

教育委員会とは、以下に示すような取組により、連携を図っている。

#### 一 定例校長会研修会の開催

毎月実施されるこの会には、必要に応じて各課からの事業等の説明の他、教育長・参事・指導課長から、市・県の教育的課題、人事における課題等について、説明及び指導・助言をいただいている。またそれを元に、研修や情報交換を行い、共通理解が図られることよって、市内各校で安心して学校経営に取り組むことができている。

#### 二 小中一貫教育への取組

本市では、学校と教育委員会が連携し、平成二五年度より各中学校区ごとに施設分離型の小

中一貫教育の推進に取り組んできた。

本年度から、二つの基本理念

(一)「確かな学力の向上」

小中学校九年間を見通した系統的な学習

(二)「生きる力の育成」

人間関係づくり、社会性・自立性を伸ばす教育

の達成に向け、各中学校区の実態に応じ、土浦市全校で取り組んでいる。

#### 三 支援体制の整備

教育委員会は、望ましい環境での教育の実現について、校長会（現場）の意見を尊重してくれている。物的支援では、例えば普通教室のエアコン設置率・電子黒板設置率は一〇〇%である。また、教育委員会主催で毎年七月、委員会代表と校長会代表とで教育予算編成に関する意見交換会があり、実情に合った予算配分がなされるよう話し合える場となっている。

人的支援では、特別支援教育支援員・理科教育支援員・図書館司書・ALTや外国語教育サポーター・生活支援員・日本語指導等の各種ボランティアがあ

る。配置に当たっては、学校との

の連絡を取りながら、児童生徒

の状況に応じた適切な配置を、

教育委員会が主導となって行っ

てくれている。

最後に、大きく変わりゆく社

会の中、児童生徒が自らの人生

を拓き、生涯を生き抜く力を培

うことのできる教育の推進に、

教育委員会と連携を深めながら

取り組んでいきたい。

## 下妻市

### 英語教育のまちづくり

下妻・下妻小  
新井 章広

下妻市校長会は、小学校九校中学校三校の計一二校で組織されています。

毎月開催している定例校長会は、教育長、指導課長、学校教育課長を加え一五名で運営しています。校長会が適性規模で組織されているため、運営状況は良好です。

さて、標題の「英語教育のまちづくり」についてです。キッズからシニアまでをキャッチコ

ピーに下妻市ではオリジナルの英語教育を推進しています。

平成三二年度には、英語は小学校でも教科になります。下妻

の教育は、この流れを先取りし、

三つの計画を推進しています。

一 英語教育のための人材確保

外国人英語指導助手の直節雇用、日本人英語指導助手の採用、

英語専門の学校教育指導員の採用など、

下妻市オリジナルのスタッフを雇用し、

英語教育を推進しています。

二 市独自の英語教育に関する

小中一貫教育の取組

パイロット校を設置し、本市

の指導計画や教材を利用し、

コミュニケーションを図る資質、

能力を育成しています。

三 市全体で行う英語教育のまちづくりの推進

市立幼稚園での英語遊びや社

会人対象の市民英会話教室、小

学校教員対象の英会話教室など

英語教育のまちづくりに鋭意取り組んでいます。

また、本年度は英語検定受験者に検定料の補助を行っていただきます。成果として、十一月現在、本市中学三年の三割が英語検定三級以上に合格しています。

校長会ではこれらの教育委員会の方針を受け、各校で連携しながら、英語教育に取り組んで

います。特に、英語の研究授業実施日には、各校で連絡を取り合い相互参観を行っています。

私の勤務する下妻小学校は、本年度、市指定の英語教育パイ

ロット校になっているため、直

節雇用の外国人英語指導助手が

週三日、日本人英語指導助手が

週一日来校し、本校職員とTT

で英語の授業を行っています。

二人とも非常にスキルが高く、

質の高い授業づくりに貢献して

います。その成果として、職員

一人一人の英語力がアップし、

英語の授業に対する関心も高

まっています。

### お詫び

前号にて、坂東市教育委員会教育長の倉持利之様のご所属名に誤りがございました。正しくは、右記のようになります。ホームページには訂正して掲載いたしました。心よりお詫び申し上げます。

### 編集後記

皆様のお陰をもちまして今年度の広報誌を無事に発行することができました。ご多用の中、玉稿をお寄せいただいた皆様には厚く御礼申し上げます。